

大野城心のふるさと館運営協議会 議事録

1 日時 令和5年3月27日（月）13：00～15：00

2 会場 大野城心のふるさと館M2階 講座学習室

3 出席者

《委員》

林田 スマ（大野城まどかぴあ）

伊藤 信二（九州国立博物館）

松川 博一（九州歴史資料館）

中村 弘峰（中村人形）

野口 厚（西日本鉄道㈱）

本田 麻子（㈱JTB福岡支店）

古賀 麻美（ままいる）

天野 祥子（ふるサポの会）

片山 一男（ふるサポの会）

《事務局》（大野城市心のふるさと館）

館長 赤司 善彦

ミュージアム担当 課長 山崎 克博、係長 早瀬 賢／島 朋宏、担当 永利 舞、花房 伸哉

文化財担当 課長 石木 秀啓、林 潤也

4 内容

（1）委嘱式

（2）運営協議会

①会長・副会長選出

会長を林田スマ委員に、副会長を伊藤信二委員とすることで決定。

②心のふるさと館の運営について

事務局より、館内案内及び資料を元にした施設概略及び事業概略の説明。

〔委員意見〕

- ・幅広くたくさんの事業が実施されており、参考になる部分も多い。
- ・中学校のカリキュラムの都合上、館での学習を組み込むのが厳しいのはどこでもよく聞く。来館以外にもオンラインや出前講座、学芸員や文化財技師などのキャリア教育で関わっていくなどの手段も検討できる。
- ・カタカタレースの日に講座学習室でままいる一むが実施されていたが、ままいる一むへの参加者のM2階への誘導がうまくいっていなかった。館内ではいろいろなイベントや催しが行われているが、来館者への周知に課題がある。
- ・特別展を市民だけでなく、市外の人にもどんどんPRしてほしい。

- ・市民サポーター交流はすばらしい取り組み。今後、未来ある子どもたちを対象に、学芸員やサポーターが学校に出向き、事前学習を行った上で、交流に行き、交流の中で持ち帰ったものを展示や発表などで形にするということも検討してほしい。
- ・中学校の利用が少ないという課題について、中学校には探究学習を規定時間取り入れるという決まりがあるが、修学旅行はどの学校でも必ずある。自分たちの郷土の勉強をした上で、外部の都市のことを学び、気づきを得るなど、修学旅行の前後の学びを大切にするという視点がある。
- ・ボランティアの取り組みを子どもたちに体験してもらったり、館長体験など、館のお仕事体験もよいのでは。
- ・説明を聞いて、色々なことを考えて作られていることがよくわかった。だが利用者目線で見ると、館側の意図が市民に伝わっていない部分があるように感じる。館のテーマや動線など、今後見直していくポイントはあと思う。
- ・事業の内容も前衛的で、展示もおもしろい。しかし、2階より上に上がってからの見方がわかりにくい。大野城とは、須恵器とは、など、全く知識がない来館者を前提とした展示の導入への工夫が必要。
- ・開かれた施設という視点で考えると、まだまだ知られていない面があるなど、この館の使いやすさが最大限発揮されていないようにも感じる。市役所がものすごく混んでいるときにその待合に使うなど、新しい試みも検討してみてもいい。
- ・少人数でこの事業量はよくやっていると思う。しかしライティングが60点程度。床も壁も均等に照らされているため、寂しい印象に見える。石垣だけにスポットをあてるなど、ライティングだけで上に何かあるなどと思わせることができるはず。効果的にライティングができれば、滞在時間や売上が伸びる。3年に1回など、定期的にデザイナーを入れて見直すなど、光でメリハリをつけてみてはどうか。

→今回いただいた意見に対しては、検討し、次回運営協議会の際に検討結果を報告したい。今回は初回のため事業を知っていただくという形を取ったが、次回以降は事前にテーマを持った議題をお送りし、検討いただくような形で考えている。

→次回は9月を予定している。後日日程調整をさせていただく。

5 配布資料

- ・次第
- ・資料（心のふるさと館事業概要）
- ・施設要覧
- ・年報 2021
- ・ここふるニュース vol. 15
- ・令和5年度春季特別展チラシ